

臨床検査科支部会報

ピペッツVol. 18

1999年3月27日発行

編集委員 近未久美子 宮地なぎさ

網島 充英 古川 聡子

編集発行 川崎医療短期大学同窓会(松丘会)

臨床検査科支部

〒701-0194 倉敷市松島316番地

TEL 086-462-1111 (内3025)

印刷 西日本法規出版(株)

巻頭言

勉強していますか？

第7期生

福林 雅裕

卒業後、9年間色々な部署で多くの経験をしながら仕事や勉強をさせていただいた川崎医科大学附属病院を退職し、学生時代より12年間住んだ倉敷を後にして、今の職場である広島県の三原の医療法人清幸会土肥病院(210床)に来て早くも8年が経とうとしています。その部署の専門的なことや学生教育・研究に没頭できた附属病院とは違い、現在の中規模の病院では検査技師としての色々な仕事(検体・生理検査)は全部出来て当然で、かつ医事や経営に参加して行かなくてはなりません。レセプト、保険点数、保険適応検査、適正な病名の有無、実費検査の料金、検査収益、検査件数、ランニングコスト、人件費、患者数の増減、患者サービス、他部門との意見調節等などと未知との遭遇ばかりです。

皆さん、レセプト(診療報酬明細書)で知っていますか？これが無いと私達が苦勞して出した検査結果に対して健康保険からお金の支払いがありません(=ただ働き)。これにきちんと病名がありそれに適応した検査が適切な回数で行われていて初めてお金の支払いが医療機関に行われるのです。いくら検査が努力して検査数を伸ばし、コストを安く行い、検査の収益を上げたとしても、レセプトで認められなければ、病院の収入になりません。このことは、病院にとって検査は赤字です。これを如何に防ぐかも検査室の仕事になってきます。

現在の厳しい医療業界の中で、病院にどうしたら収益を上げさせられるかが検査室の生き残りの課題です。しかし、今後検体検査では大きな収益をあげることはどんどん出来なくなるため、他の方法で病院に貢献できることを考えなくてはなりません。そこで、今までの検査結果を出すだけの検査室内の活動でなく、検査室外に目を向け、病院へ貢献できる事について考える必要があります。患者さんへのサービスは当然のこととして、検査室のユーザーである医師・看護婦・医事など病院内に対しても検査室としてサービスが必要です。病院(医師・看護婦・医事など)にとって必要な検査室にならなくては、私達の存在は無くなり、職場は無くなってしまいます。卒業生の就職先の確保だけでなく、私達自身の職場の確保(検査業務以外では法的に業務制限がありますが、もっと色々あるのではないかと)を真剣に考えて、必要な検査の専門知識の習得だけでなく、今後の検査室のあり方について、もっと大きな視点で見てどうしたらいいのか考え、色々な事にトライして、「病院内でどうしたら検査室が今後発展できるのか?」「どうしたら病院全体が発展できるのか?」日々考えて創意工夫を行っていく必要があります。常に問題意識を持って、日々の生活を送って勉強して下さい。

と難しい話になりましたが、ある程度年を経ると色々とお小回りが出来ないことが多くなるので、若いうち(身軽な時)に仕事だけでなく遊びもしっかり出来るときにやって、あのときにもっとやっておくのだ。と思うことが無いようにがんばって下さい。

第5回検査科交歓会を開催して

学術企画部
理事 見手倉久治

昨年、11月7日(土)午後3時から5時まで、第5回臨床検査科交歓会が開催されました。参加人数は学生が22名、同窓生が11名、計33名で盛況に行われました。

今回は、欠員や遅刻者もなく今まででもっともスムーズな運びとなり、ゲームも白熱し、2ゲームがあっという間に終わってしまいました。成績は1位5期生宇野二郎さん(376ピン)、2位5期生清水哲也さん(324ピン)、3位学生(1年生)の荒牧利香さん(306ピン)でした。圧巻だったのは、1ゲームめに宇野さんが209ピンを記録した時と、2ゲームめに学生の荒牧さんがハンデなしで184ピン(ハンデを入れれば199ピンを記録した時)でした。みんな自分のゲームはそっちのけで、一投一ピン(?)に一喜一憂していました。

ちなみに私は、話題となった荒牧さんと同じレーンで投げていたのですが、2ゲーム合計で100ピン差をつけられてしまいました。まあ企画部としては、皆さんに楽しんでいただいていた商品を持って来ていただくことが一番と思いながら、反面なさけなかつたり…。

同窓生の皆さん!!本当に楽しいですから是非参加してください。

国家試験対策の報告

学術企画部
理事 見手倉久治

1999年2月13日、20日の両日、同窓生による「国家試験直前講義」を短大3年生に行いました。今回はあらかじめ学生にアンケートをとり、希望が多かった8科目についてスライドを中心にした講義を実施しました。

前回までは、平日の18時ごろから20時すぎごろまで行っていたのですが、学生の希望などもあり土曜日の午前中に実施しました。参加は自由でしたが、ほとんどの学生が参加し、国家試験直前ともあってみんな熱心に講義を聞いていました。

今回、講師としてお願いした同窓生の方々には、お忙しいところありがとうございました。

さらに、国家試験当日(3月7日)には「解答速報」を作成しました。当日の夕方、同窓生約20名が短大図書館に集合した後、20時ごろまでに解答を作成し、学生に手渡しました。解答作成の迅速化のため、試験会場のある香川県に在住の6期生山下和良さんと9期生森田郁代さんには、問題用紙のFaxをいただき本当にありがとうございました。

直前講義も解答速報も参加していただいた皆さんのおかげでスムーズに行えました。学生も非常に喜んでいましたことを付け加えておきます。今後も、同窓会としてできる範囲で交流、援助を行っていきたくて考えておりますので、よろしく願いいたします。

同窓会だより

～6期生同窓会 土佐編～

卒業18年目の土佐同窓会日記

第6期生 矢島 尚子

1998年11月22日(日) くもりのちはれ

家を出る頃には雨がポツリポツリ降っていて、かさの用意もして出かけたが、中庄駅に着いた頃には上がっていた。なつかしい鎌田先生の顔、東京や大阪からかけつけた級友の顔を見て、お互いに“変わってないね～”となくさめ合う。なつかしい、りっぱになった中庄駅に集まった11人、それぞれ3台の車に分乗して高知に出發、‘おかじまや’で2次会のお酒をごっそり買いこむ(こんなに飲むかな～?)。私は、1番運転歴の長いY氏の車に乗り込む(そう言えば、短大の当時、運転免許取得禁止だった!!)。途中で2台の車と落合い一路高知へ。今日の同窓会の会場は、グリーンピア土佐横波。高知市から南西に1時間位の湾の上だ。海沿いのくねくね道を走っている頃には日もすっかり暮れてしまっ、ホテルからの眺めも見れなくなっていた。ホテルに着くと、次々になつかしい声“元気～?” “全然変わらんね～” “おかへありがとー” なんだか昔のあだ名で呼ばれるとくすぐったいようなうれいような…。6時30分からの同窓会に集合したのは佐々木先生、鎌田先生、6期生24人プラスKさんの家族(子供さん2人+4期のK氏)の29人、私達6期は、卒業時49人(1人交通事故で死亡)だったので、出席率50%。こんなに集まってくれて…すごうれしかった。皿鉢料理を囲んで、短大の時の出席簿順に並び、みんなの近況に驚いたり、納得したり、笑ったり…あっという間の2時間30分だった。10時から男の子達(男の人!?)の広い部屋で膝を突き合わせながらの2次会。O氏とY氏の漫才に大笑いし、つつい3次会まで参加し、いつの間にか時計は4時をまわっていた。

11月23日(祝)はれ

黄金色の朝日に目ざめると、眼下に青い海が広がっていた。さっき寝たような気がするのにみんなしっかり元気に起きている…まだまだ若いゾ!!(夜中の40才前の青春が頭の中で回ってるが…)

熊本のN氏が朝早くから飛行機で帰ると言う。“また今度会う時まで、仕事大変だけどがんばろうね”ホテルの前で集合写真を撮って解散。私達は、桂浜に車を連ねて直行。太平洋がすばらしく青く美しい海岸線を右手に眺めながら、おだやかな桂浜に到着。高知に住むKA夫妻(2人とも6期)も、幸せそうに笑って立っていた(短大時代は男女交際禁止でした)。

高知医大の中検を見学後、帰途についた。何だかタイムスリップした2日間だった。学生時代にもどって、話しはずんだが、17年の歳月は確実にたっていた気がする。自分の悩みなんか、何て小さいんだろう…みんながんばっているんだ…。次の幹事も決まったし、絶対、次も会いましょう。



P.S. 宴会場で撮った写真はカメラの調子が悪くて撮れていませんでした。すみません。佐々木先生とHさんのあつあつの写真もおジャンです。乳をやりながら宴会に参加してくれたMさん、朝飛行機で帰ったN氏、集合写真がありません。許して下さい。そこで、次回同窓会で全員写真をもう1度撮り直しますので、必ず全員出席して下さい。お願いします。

同窓会を終えて

6期生担任 中尾(旧姓 鎌田)文子

お正月も過ぎ、ここ神戸の地にも珍しく雪花が舞った日、岡部さんから、先日の同窓会の写真が届けられました。“あっ、先日の同窓会の写真だわ”と、封書にハサミを入れる手ももどかしく、封を切りました。“写っているいる。どれどれ、えーたしか全員で24名のはずだけど。佐々木先生、髪がすっかり白くなられたこと。まあ、写真を観ても全然変わらないわ!男性は多少太めだけれど女性は全員スマート。卒業して、何年経ったのかしら。17年?18年?とすると彼女らは38、39才位かな”

同窓会では、「卒業」がつい先日の出来事のように、流れた年月など、どこかに吹き飛んでしまい、すっかり昔にタイムスリップしてしまいましたね。皆様にお会いするまでは多少不安で、“わかるかしら”なんて思っていました、そんな不安な気持ちなど、どこ吹く風。一人一人の顔を拝見できたのも、嬉しかったけれど、おしゃべりを聴いて、楽しかったこと。“えー、そうだったの”とか“まああきれた”“ふーん、そんな事もあったんだ”なんて感心したり、驚いたりしました。今だから安心して聞いている秘話っていうのも、ありましたね。女性の方も、お仕事を続けていらっしゃる方、専業主婦の方、それぞれいて、主婦の会話にも花が咲きました。今頃になってこんな事を言うのは失礼(ごめんなさい)ですが、“六期生って、こんなに勉強家の人が多かったかしら”。がんばり家さんも多く、今の私から観ると本当に感心してしまう人ばかりです。今まで“どこに、そんな才能を秘めていたの”なんて思える人もいて、本当に新しい発見をいたしました。ひとり、高知からの帰り道、暖かく穏やかな気持ちで、いっぱいでした。

この同窓会で皆様に再会し、「元気の素」を、たくさんいただくことができ、大変幸せに感じております。

平成大不況とか、世紀末だとか、暗い話題ばかりの多い昨今、何かのCMであったように“今年^{いいとし}は平成11年よ!”と、そう思ってがんばっていきたくと思っています。また、いつかお会いする日を、楽しみにしております。



17年目の同窓会

6期生 中村 光男

1998年11月22日、佐々木先生在住の高知で開かれた6期生の同窓会に参加でき大変嬉しく、最高の思い出となりました。佐々木先生、鎌田(旧姓)先生、卒業以来の仲間、それぞれが学生時代とほとんどかわらず、卒業後16年経過した年月など忘れてしまいそうでした。家族で参加された人もおられ、和やかな雰囲気の中、近況報告の後佐々木先生の「高知のお酒の特徴」「かつおのたたきにニンニクがついてくるのはなぜ?」等、学生時代同様我々を包み込むような暖かさで話して下さいました。話題が尽きない中、時間だけが早く過ぎ去るような感じましたがそのくらい心から楽しい同窓会でした。会場の土佐横浪(光松地区)は海に面した風光明媚なところで、AM4:00にホテルからみた夜空の満天の星の輝きを目にして、これからも両先生、同窓生全員が健康で、さらに活躍されますようにと祈りました。幹事をいただいた矢島さん、ありがとうございました。

佐々木先生との懇親会開催

同窓会監事

三宅 康之

本年2月28日(日)に第29回岡山県臨床衛生検査技師学会が川崎医療短期大学で開催され、その特別講演に前副学長、前臨床検査科主任で現在高知医科大学臨床検査医学の佐々木匡秀先生が来られました。

そこで、講演後岡山の有志33人が集まり、佐々木先生を囲んで懇親会を開催しました。昔話に花が咲き楽しい一時を過ごしました。写真はその時のものです。



同窓生近況報告

出る杭は打たれるが、出すぎた杭は打たれない…?!

2期生 清水由美子



気がつけば、いつの間にやら勤続20年、長いようで短かったけれど、そうは言っても20年、いろんなことがありました。その結果、今の私は、超多忙な毎日を送っています。何でもやりたがりという性格は、いくつになっても変わりませんね。

まずはスキー。短大の体育の授業が、私たちのころはスキーでした。卒業後もジギナーとして冬になると

時々ゲレンデに穴を作りに行っていたのですが、ちょっとしたキッカケから、35才の時本格的に習い始めました。今ではSAJ(全日本スキー連盟)公認のスキークラブに所属し、指導員目指して冬は毎週山通いの日々です。(皆さん、スポーツはいくつになっても始められますよ!)しかし、そうなる家庭は大変です。仕事を休む訳にいきませんから、当然スキーは公休日に集中します。かくして我が家は雪が降るとお母さんがいない状態に突入します。当然の結果ではありますが、子供たちはすっかり夫になつき、夫の方も、家事、育児の大ベテランになりました。子供のお弁当を作ったり、少しの時間を見つけては、そうじ、せんとくをパッパとこなしてしまうスーパー夫に変身です。おかげでスキーシーズン以外でも子供たちは「お父さんの手作りコロケが食べた〜い!」などと叫んでいます。(シメシメ)

話は変わって、皆さんお気づききでしょうか?私の名前はずっと清水のままです。「あれ?でも結婚はしているみたいだし…養子かな?」と思われた方もいるんじゃないかしら。答えは“ブブー”です。今の夫と一度は婚姻届を出したのですが、私はその後もずっと通称で旧姓である「清水」を使い続

けておりました。しかし何かと不便なことが多く、夫とも相談していつそのことペーパー離婚してしまうということになり、晴れてめでたく離婚したという訳です。元々、ここ数年来マスコミをにぎわしている夫婦別姓法案が国会で成立したら、岡山県第一号で届け出に行こうねと夫と楽しみに待っていたのです。ところが、いつの間にやら国会の方の動きがアヤシクなっていました。これじゃあいつまで待ってもラチがあかないと思い、ペーパー離婚に踏み切ったのです。(といっても、そんな大そうな決意じゃないんですけど…)離婚後も、世間の心配をよそに夫婦仲良く暮らしております。こういうのをいわゆる事実婚とか言うんですね。私は、もう名前を使い分ける煩わしさから開放されてルンルンです。もし、夫婦別姓のことをもっと知りたいという方がいらっしゃいましたら、いつでも御相談下さい。ノウハウはバッチリです。

この20年の間に、検査技師としてガンバルのはもちろんですが、それ以外の勉強をするチャンスにも恵まれました。環境問題もその一つです。最近では、特に家庭内の農薬の問題や、ダイオキシン・環境ホルモンのことなど、テーマが広がっています。あちこちに招かれてお話にも行くのですが、そこはほら、私のこと、5分に一回笑っていただき、ギャグたっぷりのまるで漫談のような学習会になってしまうのが悩みの種です。

とうとう40代に突入しましたが、幸いにもこれまでたくさんのいい友人にめぐり会うことができました。これから先はできるなら今までよりも、もっとパワフルに生きていきたいと思っています。男女共同参画社会の実現と、楽しい老後を目ざし、毎日飛び回っている今日このごろの私で・し・た。



'98. 5. 長野県白馬村にて北アルプス連峰をバックに

幸せ太りの私？

3期生 福永 孝子

「幸せ太りの孝ちゃん。」

と、中学校を卒業して以来20年ぶりの初めての同窓会の時に会って最初に言われた親友からの言葉である。

皆様、いかがお過ごしでしょうか、私が、短大を卒業して、早いものでもう20年になります。岡山の川崎病院に、2年半勤めさせていただき結婚のため退職致しました。主人は、富山県出身で、製薬会社に勤めていましたので、病院のみんなに、「富山の薬売りだね。」とからかわれていたのが、つい先日の様な気がします。結婚と同時に、主人が転勤となり、最初の赴任地が、島根県出雲市。私にとっては、初めて岡山の地を離れ友達もだれ一人もなくとても不安でしたが、次第に私も強くなりました。3年半位のペースで、鳥取県米子市、広島市、徳島市、香川県高松市と転勤になり、世間知らずだった私も、主人のおかげでいろんな経験をさせてもらいました。島根・鳥取に居た頃は、子育てにおわれ、広島の頃は、ちょっと自由な時間をもてる様になり、話し方教室に通ったりしていろんな知識を得ることができました。徳島では、パッチワーク、アートフラワー教室に通い、また、主人の知り合いの奥様である中学の国語の先生からいただいた星野富弘著の一冊の本との出会いからも、詩と絵をとおして生命のすばらしさを知ることができました。今から考えれば、「幸せ太りの孝ちゃん」と言われるに相当する生活だったと思います。

主人の転勤先で、たくさんのいろんな人との出会いが、私を大きく成長させてくれた様な気がします。本当に、主人には感謝しております。

今現在は、主人は、単身赴任で高2の息子と、中2の娘と3人岡山の実家に帰ってきて年老いた父と母と5人で暮らしております。今は、病院検査室とは、まったく違う職場で働いておりますが、本当に働くことは大変です。専業主婦であった13年間は、今から考えると本当に幸せだったなとつくづく感じます。その時は、なかなかわからないのですが…。岡山に帰ってからは、時間におわれている毎日ですが、一度しかない自分の人生ですから自分に素直に、何事も前向きな姿勢でチャレンジしていこうと思っております。

最後に、私の大好きな星野富弘氏の詩を紹介させていただきます。

呼べば答えてくれる
人がいる
苦しくても
寂しくても
誰もいなくても
名を呼べる
人がいるしあわせ



それでは、皆様の御健康と御多幸を、そして同窓会の益々の御発展をお祈りしてペンを置きたいと思っております。

一昨年の写真ですが今現在やさしい高2の息子とうるさくて今一番むずかしい年頃の中2の娘です。自宅の玄関前で

さあ、皆さんと一緒に！！

4期生 萩原(旧姓山本)千代子

卒業生の皆さんお元気でお過ごしですか？今年もう23期生が卒業したとか月日のたつのは早いというものの、私が卒業してざっと20年がたつとは…。学生時代は早く卒業したくてしたくてたまらなかつた学校も今思い返すと懐かしく思えるのは私が年をとったからかな？

あのころ私たちの生活の、勉強の全ての規範だった佐々木先生も今年で退官とか聞くと本当に時の流れを感じている今日この頃です。



左より宗友(大井)、原野(船橋)、川上(佐々江)、湯浅(掛屋)、萩原(山本)



前列左より柏野(井上)さん3期生、守田(中川)、後列左より萩原(山本)、宗友(大井)4期生

私はといえば、卒業して以来岡山の川崎病院に勤めています。結構長い間ふらふら過ごしていたのですが、縁があつてか11年前に結婚し、10歳と3歳の男の子と女の子の母親にもなりました。就職したときは10人（今の学生から考えると夢のような人数ですね。）いた同期生も今は4人になりましたが、ここにきてみんな子供に手が離れたからか、もう一度新しい青春時代なのかわかりませんが、益々元気で仕事に、家庭にがんばっています。一度退職した人たちもアルバイトに来てくれたりして、顔を合わせる機会も増えました。

今2~3ヶ月に一度同期会を開いています。同期以外の方でもいろいろしゃべって、歌って、飲んでみませんか。是非、ご連絡下さい大歓迎です。

近況報告

9期生 長谷 幸代

皆さん、お元気ですか。月日のたつのは早いもので、卒業してから二度目の年女（24才?）となり、気持ちは変わらないのに、少々、年齢を感じてくることに、必死で抵抗しているところです。結婚して、もうすぐ10年、子どももいつのまにか3人（小3、年中、2才）となり、今はとてもおてんばな2才の末娘に振り回されている毎日です。3年前までは福山に住んでいて、デパートでも自転車で行ける町の真ん中にいましたが、今は田んぼの真ん中に家を建て、夜はカエルの声を聞きながら、満天の星空をながめています…と言っても、牛乳1本買うのにも、店まで歩いて片道30~40分かかり、今までペーパードライバーだった私もついに車に乗る様になりました。初めは、こわごわ40kmのトロトロ運転だったのが、最近は暴走気味で主人や子どもに恐れられ、自分の性格を改めて見直す機会となっています。

この間末娘の検診で、卒業以来初めて医大に行きました。中検の方を少しウロウロしてはみるものの、同級生は殆どいないので眺めて通るだけでしたが、中検も食堂も売店も、全く変わっていないのがとても懐かしかったです。

どっぷりと主婦業につかっていたのですが、そろそろパートでも、と思いかけているところですが、どなたか良い所を御存じありませんか？長女出産以来、9年ぶりの社会復帰は、少々いえ、かなりの不安を抱えています。まだまだ若いつもりでないと…なんとって2才の末娘と同級生のお母さんは、昭和52年生まれの子ママ。一緒に参観日や記念写真を撮る日が来るなんて、今からゾーとしています。何とか若さを保つ良い方法を知っている人、教えて下さい！！

最後に、今、住んでいる沼隈町も観光化して来ました。境が浜に、みろくの里、ハーブ園に、ドルフィンビーチと次々に出来てきて、便利になってきました。皆さん、是非一度、遊びに来て下さい。9期生の皆さん、又会いたいです！！

P.S. ドレミファどーなっつ『みどちゃん』お元気ですか。私の筆不精のため、ずーと音信不通となっていますが、時々気になっています。いつか、会いましょう！



左から増田さん、伊関さん、長谷、後藤さん

石 鎚 登 山

11期生 村木 優子



昨年の秋 慰安旅行に行った時のものです

先日石鎚山・天狗岳に友人2人と登って来ました。石鎚山は愛媛と高知の県境にあり、西日本で一番高く、霊峰ということで頂上に神社があり結構登山者の多い山です。コース自体は、鉄の大鎖を使ってほぼ垂直な岩場を登ったり、幅5メートルぐらいで崖のようになっている岩場をよじ登ったりして結構ハードでした。しかし目的地が決まっているというのは楽なものです、大体2時間ほどで頂上に到着しました。

頂上は下界の暑さがうそのように涼しかったです。山登りの1週間後がピペッツの原稿締切だったので、岩場でのおんびり横になって何を書こうかと考えたのですが、短大を卒業してもう12年以上経つんですね。11期で最後まで残る3人といわれていたうちの1人である瀧山さんもつい最近結婚し、自分も大学を2つ卒業し本当にいろいろなことがありました。結局短大の3年間を含め13年間の大学生活の後、2年前に大阪に本部のある香川のワクチンメーカーに就職しました。そこで11歳年下の同期にスマップを知らなかったためばかにされたり、社会人というものがいかにたくさん税金を納めているのか知ってびっくりしたりしました。でもこの会社での仕事には短大時代の知識が大変役にたっています。特に細菌学ですが。

しかしワクチンなんてそれまで興味がなかった上に子供にも縁がないので、この会社に就職して初めて知ったのですが、現在ワクチンは以前の自治体主導の集団接種から任意接種に変わり、被接種者自身がいろいろ勉強して考えなくてはいけなくなっていたのです。母親って大変です。ラブリー怪獣（甥っ子を見ていてその言葉がぴったりだと思ったのであえてこう表現します。）の世話をしつつ社会の状況も把握しなくてはいけないんです。まあ最近は父親の役割も変わってきたようですが…。

大学時代に、エコロジー運動に携わっていたある高校の女性の先生が言っていたのですが、社会を変えるならば母親を教育するのが一番賢い方法だとか。少なくとも20年後にはその影響が社会に確実に出るのです。短大時代、大学時代それぞれに辛いことや楽しいこと色々ありましたが、いろいろな人に迷惑をかけつつ、たくさんの人の好意に助けられながらなんとかやってきました。こんな私もいつか母親になれる日が来るといいなあ、などなど考えているうちに知らない間に熟睡し、一時間後目が覚めたときには日焼け止めをぬった甲斐もなく山頂の強い紫外線で真っ黒にやけてしまっていたのでした。



入社時に JICA 研修生の歓迎会に受け付けとしてかきだされた時の写真です

みんなどうしてる？

12期生 池田（旧姓 坪井）久美

「えっ卒業してもう11年になるんだっけ!？」先日、中務さんからピペットの原稿依頼の電話をもらいました。学生時代と変わらない元気な声がとても懐しくつつい長電話になってしまいました。

二つ返事で引き受けたもののうちの超元気兄妹（麻秀2才・実桜3ヵ月）に邪魔されて全然書けないのです。今日は夜10時半すぎてもウロウロしています。「良い子はもうみんな寝ているよ」と言っても知らん顔の困った子です。娘はまだオッパイ無しでは寝てくれません。暗くしたら寝るかなと電気を消したら、こっちが眠くなってそのままお休みなさいになってしまいました。そういえば私って学生の頃から暗くなるとすぐ眠くなるのよね。授業中のスライドはもちろん映画や観劇でもよく寝ていたもんね。

さて短大を卒業してからの私ですが、郷里の広島で就職し、細胞検査士の資格を得て6年間働きました。結婚と同時に兵庫県に移り住んでいます。主人も広島出身ですから山陽自動車道を利用するのですが、高速道から見える川崎学園と中庄付近の急速な発展に時の流れを感じ驚いています。私が最初に住んだ所は兵庫県でも少し田舎だったため検査技師の仕事は全く無く、小さな会社に2年間勤めました。平成6年に『日本のへそ』を自称する西脇市に念願のマイホームを新築しました。その3ヵ月後の平成7年1月17日に阪神大震災が起きました。我が家は幸い無事でしたが、その時の恐怖は今でも忘れられず、小さな地震でもドキドキしてしまいます。

しばらくして検査技師の仕事がみつかり転職しました。通勤に1時間半もかかる神戸市内の病院でしたが、まさかの妊娠で9ヵ月でリタイヤしてしまいました。子供ができてからはずっと専業主婦をしています。

数年前までは子供が嫌いでバリバリ働くキャリアウーマンを目指していた私が親になるなんて想像もなかった事です。検査技師の仕事はしたいけれど、保育料は高いし、遠距離通勤は無理だし、ましてこのブランクを埋める事ができて雇ってくれる所があるだろうかと思ひは着きません。しばらくは母親として育児を楽しむ他ないと自分に言い聞かせてはいますが、この先少し不安です。

話しかわるけど、息子は機関車トーマスの大ファンで、子供の頃から電車好きだった主人が買ってきたプラレールにすっかりはまっています。休日ともなると線路や道路で部屋は足の踏み場がありません。私も好きなのでプラレールタウンを作ってコンテストに応募しようと言っています。

夢破れてすっかり「普通のオバサン」になってしまった私だけ、平凡な幸福もいかなと思ったりしています。同級生のみんなはどうしてますか？同窓会で会える日を楽しみにしています。それまでお元気です！昔よりスリムになった『くまにゃん』でした。



訃報

～謹んで哀悼の意を捧げます～

●川崎医療短期大学元学長 川上亀義 先生

川崎医療短期大学元学長、名誉教授の川上亀義先生が、去る12月20日夜、88歳の生涯を閉じられました。

川上先生は、昭和48年4月から川崎医療短期大学の副学長に就任され、さらに昭和49年4月から昭和61年3月まで12年間の長きにわたり、川崎医療短期大学学長として、教育の基盤の確立、充実、発展に尽力をつくされました。その間に短大を巣立った同窓生の方々も多くいらっしゃると思います。いろんな場面で先生の温かいお人柄や教育への熱き思いを覚えていらっしゃる方々も多いことと思います。

ここに在りし日の温厚な先生のお人柄を偲び、謹んで哀悼の意を表し、心よりご冥福をお祈りいたします。

短大より

オープンキャンパス開催

去る1998年10月24日（土）

短大では、去る10月24日にオープンキャンパスが開催されました。高校生を対象とし、短大の説明や学内の見学、来年度の募集要項の説明等を行いました。10月24、25日の両日は学園祭が開催された関係もあって8月のキャンパス見学会に勝るとも劣らない人出でした。

臨床検査科では、顕微鏡やコンピュータなどの体験実習、進路相談を行い、科の様子を少しでも体験してもらえたのではないかと考えています。

留学生帰国

中国からの留学生何 鐘磊さんが研究生として来られていたのですが、この3月で帰国されました。何さんは、上海職工医学院病理教研室講師で、本学でも熱心に病理関係の研究をされ、学会や学生の研究発表会へも積極的に参加・発表をされました。研究や勉学の姿勢は誠に頭が下がる思いであり、私たちも学ぶべきことが多かったような気がします。これを機にさらに研究が発展し、また日中友好の輪が広がることを願っています。

国家試験受験

3月7日に第45回臨床検査技師国家試験が行われ、短大臨床検査科3年生45名が受験しました。合格発表は4月14日（水）午後2時です。

前述のように、同窓会では、学術企画部のお骨折りにより、国試前にスライドを使用した国家試験対策講義や当日の解答速報の作成を行っています。このような活動が、少しでも在学生の役に立つことを願っています。

短大体育館改築

昭和48年開学以来、今日まで多数の卒業生や在学生が使用してきた体育館が、学園創立30周年の記念事業の一環として改築されることになりました。もうすでに、古い体育館は取り壊され、新体育館の建設が進んでいます。新体育館は平成11年の年末に竣工予定です。

近況報告

- 第24期生（45名）が卒業しました（卒業式は3月15日でした）。

これで臨床検査科卒業生の総数は1,165名（うち2名死亡）となりました。

編集室

★3年間は早いものです。ついこの間入学した学生たちがもう3年過ぎて短大を去っていきました。あんなに頼りなかった学生たちも卒業の時には、胸をはって堂々とりっぱに見えるのは3年間の努力(?)のおかげなのでしょう。何はともあれ各地で、いろんな方面でさらなる活躍を祈っています。同窓生の皆さんもどうぞかわいがって(?)あげてください。

★「ピペット Vol.18」をお届けします。6期生の同窓会だより掲載にあたり、原稿を送って下さった皆さん、どうもありがとうございました。楽しい同窓会の様子が伝わって参りました。また、同窓生の近況報告掲載にあたり、原稿を送って下さった方々どうもありがとうございました。原稿によってはずいぶん掲載が遅くなってしまったこと深くお詫びいたします。また、「今回私の原稿が載ってないワ」と言われる方々もあるかと思いますが、紙面の都合上、来号以降の掲載となることを重ね重ねお詫びいたします。なお、同窓会報告とか、近況報告等掲載希望の原稿がありましたら、短大の方までご一報くださいませ。皆さんの手による同窓会誌を目指しておりますので、よろしく願います。

(ちかびょん記)